

八峰町名誉町民 日沼頼夫博士逝去



八峰町名誉町民で文化勲章を受章された日沼頼夫(ひぬま・よりお)博士が2月4日午後4時14分、肝臓がんのため、京都市内の病院で亡くなりました。90歳でした。



名誉町民称号記を授与される日沼博士

2月4日、本町名誉町民の日沼頼夫博士が病氣療養中のところご逝去されました。葬儀・告別式は同月8日に、京都市で行われました。

日沼博士は、旧八森村茂浦に生まれ、昭和25年に東北大学医学部を卒業、同32年医学博士となり、アメリカ・ロズウエルパーク記念研究所客員研究員も務められました。

昭和43年東北大学歯学部教授、同46年熊本大学医学部教授を経て、同55年京大ウイルス研究所教授に就任し、この年、高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞されました。

その後も、野口英世記念医学賞、武田医学賞、ペーリング・北里賞、ハマー賞を受賞され、昭和61年には文化功労者にも選ばれました。



文化勲章受章記念祝賀会で花束を手渡される日沼博士

昭和62年に京大ウイルス研究所長に就任、同63年には京大名誉教授、シオノギ医科学研究所長も務められました。

これまでの功績が称えられ、平成元年に秋田県名誉町民、旧八森町名誉町民、同18年には八峰町名誉町民の称号が授与されました。そして、同21年文化勲章を受章されました。

秋田県出身者としては、54年ぶり2人目の快挙でした。

日沼博士は、長年続けてこられた研究により、成人T細胞白血病(ATL)の病原ウイルスを発見し、人間のがんがレトロウイルスによっても起きることを世界で初めて実証し、今日のがんウイルス研究に大きく貢献されました。



文化勲章受章記念講演に耳を傾げる小中学生

日沼博士の残されたご功績は誠に大きく、本町だけでなく、今後の日本を担っていく児童・生徒にも大きな影響を与えてくださいました。

ここに生前のご功績に対し、心から感謝と敬意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

文化勲章を受章した翌年には、記念講演会が一般向け、小中学生向けの2回行われました。

また、平成23年には日沼博士から寄贈された蔵書約2000冊の分類別整理が完了し、「日沼頼夫文庫」がオープンしました。幅広い分野の書籍が揃っており、訪れた方の興味を引いています。



さまざまな分野の本が並ぶ日沼頼夫文庫

日沼頼夫博士の年譜	
大正14年	旧八森村茂浦で生まれる
昭和17年	能代工業学校卒業
昭和25年	東北大学医学部卒業
昭和29年	東北大学大学院修士課程修了
昭和32年	同大医学部助手
昭和33年	医学博士
昭和35年	米フィラデルフィア小児病院ウイルス研究所研究員
昭和40年	東北大学医学部助教授
昭和43年	米ロズウエルパーク記念研究所客員研究員
昭和46年	東北大学歯学部教授
昭和55年	熊本大学医学部教授
昭和58年	京大ウイルス研究所教授
昭和59年	高松宮妃癌研究基金学術賞
昭和60年	野口英世記念医学賞 武田医学賞
昭和61年	ペーリング・北里賞
昭和62年	ハマー賞
昭和63年	文化功労者
平成元年	京大ウイルス研究所長
平成3年	シオノギ医科学研究所長
平成6年	秋田県名誉町民 旧八森町名誉町民
平成18年	八峰町名誉町民第1号
平成21年	文化勲章
平成27年2月	死去